

転倒対策のある車いすトイレへの改修を短工期で実現。



1991年の開院以来、「市民が心から頼れる病院」として、高度で安全な医療を提供している。

横浜市立大学附属病院 トイレ改修工事

- 竣工年月/2015年3月(改修)
- 所在地/神奈川県横浜市金沢区福浦3-9
- 施主/公立大学法人横浜市立大学附属病院
- 設計施工/TOTO エンジニアリング株式会社

1Fの外来に設けられた車いすトイレ。以前は便器両側の手すりのほか、ベビーチェアくらいしか用意されていなかった。今回の改修では、座位を安定させる背もたれやL型手すり、跳ね上げ手すり、多目的シート、オストメイト対応の設備などを用意した。

座位を安定させる工夫などのほか 床にはクッション性のある素材を採用。

横浜市立大学附属病院は、2015年3月、外来の車いすトイレの改修を行いました。病院内の「転倒転落防止プロジェクト」という組織では、車いすトイレの中で患者さんが転倒してしまうケースが多いことを問題視。できるだけ車いすや便器から転落せず、転倒してもケガにつながらないように考えました。

1F外来の車いすトイレから改修をスタート。わずか10日間ばかりの工期で、座位を安定させる手すりや背もたれのほか、オストメイト用の設備、多目的シートなどを用意しました。さらに床にはクッション性のある素材を採用し、万一の転倒時のリスクを小さくできるように配慮されています。



Voice 総務課の方からの声

大型防汚陶板の壁で、きれいな状態が続きます。



医学・病院統括部総務課
施設担当係長
工藤牧子さん



施設担当
渡邊克さん

トイレは患者さんが最も気にされる空間です。当院の「患者サービス委員会」のアンケートの中で、クレームのおよそ4分の1がトイレに関すること。特に病棟のトイレについて、

狭い、汚い、臭いが取れないなどの苦情が多く、改善の必要があると考えました。そして「転倒転落防止プロジェクト」からの意向を受けて、まずは外来のトイレから改修しました。大幅な改修は今回が初めてですが、工事期間中は他に使えるトイレもご案内しましたし、特にクレームもありませんでした。壁は以前から抗菌・防臭効果のある光触媒技術を応用した大型防汚陶板にしていますが、清掃もしやすく、臭いもしないですし、きれいですよ。今後は4~5年くらいの計画で、看護師さんたちの要望も大きい病棟トイレの改修を進めたいですね。そちらでは前方ボードなども導入する予定です。



1F外来の車いすトイレの入口。人感センサー式のLED照明を採用している。



トイレの前には、車いすの患者さんが利用に困らないような案内も貼り出されている。



患者さんアンケートの中に、ベビーシートではなく、大人でもおむつ交換のできる広いスペースがほしいという要望があったため、その意見を取り入れて多目的シートを導入した。